

令和元年生駒市教育委員会第5回臨時会会議録

1 日 時 令和元年8月5日(月) 午前10時～午後0時6分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

(1) 議案第24号 令和2年度使用小学校教科用図書採択について

(2) 議案第25号 令和2年度使用中学校教科用図書(特別の教科 道徳を除く。)採
択について

4 教育委員側出席者

教育長	中 田 好 昭		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委員	寺 田 詩 子
委員	神 澤 創	委員	浦 林 直 子
委員	坪 井 美 佐	委員	レイノルズあい
委員	西 井 久 之		

5 事務局職員出席者

教育振興部長	真 銅 宏	教育振興部次長	坂 谷 操
教育総務課長	辻 中 伸 弘	教育指導課長	城 野 聖 一
教育総務課課長補佐	山 本 英 樹	教育指導課課長補佐	前 田 伸 行
教育総務課(書記)	牧 井 望	教育総務課(書記)	鬼 頭 永 実

6 傍聴者 16名

○開会宣告

○日程第1 議案第24号 令和2年度使用小学校教科用図書採択について

・令和2年度使用小学校教科用図書採択について、城野教育指導課長から説明

<参照：議案書p1、資料1・2>

(質疑)

【 国語 】

中田教育長：国語については、2東書、11学図、17教出、38光村の4社である。

各委員からのご意見を賜りたい。

飯島委員：現場の意見は、光村で一致しており、また、資料1の調査研究まとめにも、対話的な学びの機会を多く設けているという点で、光村を評価され、非常に有力な候補だと認識している。本の作りも非常に安心感があり、先生も子どもたちも使いやすいと感じた。各学年で合冊、分冊のものがあるが、5・6年生は1年間の学びを見通せるものが良いと思うので、その点から言っても、合冊になっている光村が良いと思う。また、小学校の国語の教科書には、谷川俊太郎の『生きる』という詩がよく載っているが、6年生の終わりにこの詩を載せることによって、自らの命を大切に生きるというメッセージを伝えることができるのではないかと思う。

寺田委員：低学年の教科書を中心に各社の教科書を見させていただいた。1年生の光村の教科書は7ページ目まで文字がなく、子どもたちに絵を見て想像させる余裕がある。子どもたちの初めての学習を優しく受け入れてくれていると思った。また、東書は、「とんとんととん はじめるよ」というリズムから始まっていて、子どもたちが楽しみながら学習できると思った。その部分だけ色彩がややきつくなっていたが、逆に子どもたちの目を引き、何が始まるのかという、わくわくとした気持ちになれると思う。以上の点からスタートカリキュラムに配慮がある東書も良いと思う。

浦林委員：私の長女は大学生になるが、学習指導要領も変わり、子どもたちに必要とされる力が変わってきた中で、教科書も当時のものからはかなり変わったなという印象を受ける。特に、日本の魅力を再発見する単元を取り扱っている会社がいくつかあった。学図では、6年生の下に「日本の魅力、再発見」があった。光村では、6年生に「日本文化を発信しよう」とあり、学習だけでなく、発信までするという点で、和食をテーマに取り上げておられた。東書では、5年生で「和の文化を受けつぐ」で、和菓子に焦点を当て、こちらも学習だけでなく、調べ、発表やプレゼンテーションをするという段階まで用意されていた。また、東書はコミュニティデザインについて取り上げていた。現在、当市では、教育大綱等において、主体的に地域に関わる子を育てる、市民みんなでまちを創っ

ていくという方向性があると思う。特に6年生の「町の幸福論」では、まちの魅力を発見して、どのように継承していこうかということを考える機会が設けられていた。以上の点から光村も良いが、東書も良いと考える。

坪井委員：各社とも、対話的・主体的な学びに重点を置いた教科書となっていると思った。東書は「つかむ」のコーナーがあり、各単元の始めに、「気持ちよく話を続けよう」など話すことや聞くことといった対話的な言語活動に重点が置かれていて良いと思った。また、登場人物が適度に出てきて、1年間児童に伴走する形で学習が進み、具体的な問いかけがあり、方向性が見やすい。他には、学図では、「文を作ろう」という形で、プレゼンテーションや発表に力を入れている。光村にも、伴走型のキャラクターが登場し、また、各単元の終わりに大切な部分についてのまとめがあって、子どもたちにとって分かりやすい。

イノブ委員：内容については、各社様々に工夫されていると感じた。教科書のサイズについて、1年生でいえば、各社上下と別れており、東書は上が137ページ、下が167ページ、教出は上が136ページ、下が174ページと多めとなっていた。一方、現行の光村は上が128と下が136とページ数が少なく、国語は持って帰るものなので、重さに配慮がある方がいいと思う。また、光村は限られたページ数の中でバランスのとれた内容を取り扱っていると感じた。東日本大震災は5年生で、戦争体験は3年生下『ちいちゃんのかげおくり』、4年生で『一つの花』、5年生でも広島について触れており、後世まで伝えていかななくてはならない内容だと思う。また、6年生ではメディアリテラシーについて取り扱い、21世紀を生きる子どもたちが身に付けておかななくてはならない知識だと思った。また、教出では、6年生の下で哲学対話に触れて、「幸せとは何か」「学校は何のためにあるのか」など、答えが一つではないものについて、話し合い、自分の意見を言い、他人の意見を聞くことができる点が非常に良い。

西井委員：他の委員からもあったが、私も東書も良い内容だと思っている。しかし、他市町村の採択の状況を見ても、学力が同程度の市町村は、光村を採択することが多く、また現場の意見を見ても光村という希望があることから、光村を採択するのが最適かと思う。

中田教育長：皆様の意見を総括すると、特に評価が多かったのは、光村である。教科国語、種目国語については、「38光村」を採択することで異議ないか。

(異議なし)

審議結果【38光村を採択】

【書写】

- 中田教育長：書写については、2東書、11学図、17教出、38光村、116日本文の5社である。各委員からのご意見を賜りたい。
- 浦林委員：意見を出す前に質問であるが、学校訪問で現場を見せていただくと、本市では、書写は各教室に整備された大型モニターを使って解説している先生が多かったと感じる。各社デジタル教材は対応しているのか。また、あるのであれば、各社のデジタル教科書の使いやすさ等について、先生方からご意見はあったのか。
- 城野課長：各社から教員用指導書にデジタル教材が付いており、その点では各社に差はない。また、お手本については、教科書ではなく、プリントを配布して手元に置きながら書くようにしている。
- 飯島委員：各社とも筆の動きや穂先の向きの説明は、朱と黒を混ぜて図解している。色のコントラストや解説の度合いについては、東書と教出のものが分かりやすい。また、筆を持つ時の姿勢の写真で示している会社が多いが、その点についても、東書と教出が見やすいと思う。
- 坪井委員：朱墨による指導については、東書は入り、折れ、曲がり、そりが分かりやすい。また、東書は、教材が上、書き込み欄が下というお手本の配置になっており、左利きの子への配慮があり、ユニバーサルデザインという観点からも素晴らしいと思った。
- レイノルズ委員：3年生から始まる毛筆について、墨ではなく水を筆に付けて文字を書く水書きができるセットが、1・2年から先行して記載があるものもあったが、その他の書写の指導内容としては、各社差異がないと感じた。私の子どもの様子を見てみると、「目」等の文字の横線を等間隔に書くのが難しいようだ。光村の2年生の教科書では、「目」の間隔について、文字を梯子に見立てて、猿のキャラクターがバラバラだと登りにくいと言っているのが、子ども達は分かりやすいし、説明する側も楽しいと思った。東書は、3年生で「書写のかぎ」というコーナーが端について、「1見つけよう」「2確かめよう」「3生かそう」のステップで、点や曲がりなど、気を付けなくてはならないところが確認できるので便利だと思った。短所を挙げるとすれば、その分幅は少し大きくなっている点と、挿絵の色が若干薄い点があるが、全体的には東書が良いと思う。
- 寺田委員：毛筆は3年生から始まるが、子どもたちにとっては墨で汚してしまわないかという緊張感があるので、書写の教科書は書くことが楽しくなることが大事だと思う。見やすさ等については、各社差はないと思うが、書くことを楽しめるかという観点から見ると、東書が良い。
- 西井委員：各社ともに工夫されており、内容的には差はないと思う。レイノルズ委員からもご意見があった、東書の欄外の「書写のかぎ」は児童が自己評価できて良い。サイズについては、東書は他と比べて大きいですが、学校現

場ではお手本用に印刷したものを渡すなど、実際に書く際は教科書をそのまま使っていないので、大きな問題ではないと思う。

中田教育長：皆様の意見を総括すると、東書、教出、光村の意見が多かったが、特に東書を支持する意見が多かったように思う。教科国語、種目書写については「2東書」を採択することに異議ないか。

(異議なし)

審議結果【2東書を採択】

【 社会 】

中田教育長：社会については、2東書、17教出、116日文の3社である。委員の皆様のご意見を頂きたい。

飯島委員：一般的に社会は、実際の授業において、中学年は副読本を使うことが多い教科だが、生駒市ではどうか。

城野課長：3年生は、生駒市で身近な施設等について副読本を市で作っている。4年生では県教委から発行されている副読本を使い、自分達の住む地域の学習をしている。

飯島委員：社会科は、3年生から始まる教科なので、3年生での学びが重要になる。授業で身近な地域が登場する方が、子ども達も取り組みやすいので、副読本の使用は引き続きお願いしたい。教科書についても、同様に関西地方などの身近な地域が登場する方が、子ども達も親しみやすいので、多く関西を取り扱っている日文が良いと思う。更に日文は現行本であり、また現場からの意見としても日文を希望している。また、5年生で扱う領土問題について、東書は「領土問題はない」と言い切っている。日本の公式見解としては、「全て日本固有の領土である」というものだとしても、実際には「領土問題が存在する」と考えている国や人もいるので、そのことを示した上で、子ども達に考える機会を与えるような教科書が望ましい。その点について、教出と日文は丁寧な説明があり、また話し合う機会が設けられている。その点でも日文が良いと思う。

寺田委員：3年生では、生駒市や校区を知ることが、社会という教科の始まりになっていると思う。3年生はまだ自分の住んでいるところがイメージできないので、副読本やデジタル教材も使いながら、イメージしやすい授業を心掛けていただきたい。日文は学び方や調べ方を示しており、具体的に何をすべきかが分かりやすい。疑問や分かったことがキャラクターの表情で示されていて、難易度も分かりやすい。また、教出では、自分たちの家やよく行く場所はどこにあるのか、自分たちで調べてみるという部分があり、子ども達が具体的に考えやすいと思った。

坪井委員：社会でも対話的で主体的な深い学びが意識されており、各社ともに、キャラクターが登場し、話し合いの中で学びを進めていくという形になっ

ていた。社会は絵と図と文とグラフのバランスが難しい教科だと思うが、レイアウトについて、日文は段組みが揃っており、囲い込みの表記も効果的で良いと思った。

レノルズ 委員：飯島委員からもご発言があった領土問題について、東書は「領土問題はない」と言い切っている点は、差し障りがあると判断し、選択肢から外させていただいた。教出は、生駒市について環境モデル都市として取り上げており、また領土問題にも最も丁寧な解説をしていた。しかし、所在地が東日本なので、単元に関東地方が頻繁に取り上げられており、子どもは身近に感じにくい。一方、日文は、和歌山や姫路など身近な関西地方を話題にした内容が多く、実際に休日に家族で行ってみることもできるので、日文の方が良いかと思う。

神澤 委員：日常感覚では市町村単位が身近に感じやすい。東京都の区の話から始まるものもあったが、生駒市には区が無いので、やや理解が進みにくい。副読本を使用するのもいいが、教科書は指導の柱として、地域に子どもが入っていきやすいことに重きを置きたい。

西井 委員：日文は、関西圏で奈良県、滋賀県だけ取り上げられていない。奈良県内で日文はよく採択されているのに残念だ。ただ、近接した府県を多く扱っており、現場からも支持されているので、日文が最適ではないかと思う。

中田教育長：教出と日文で意見が割れているが、意見を整理すると、日文が優勢かと思う。では、教科社会、種目社会は「116 日文」を採択することにご異議ないか。

(異議なし)

審議結果【116 日文を採択】

【 地図 】

中田教育長：地図については、2 東書、4 6 帝国の 2 社である。委員の皆様のご意見を伺いたい。

飯島 委員：意見の前に、現行本は東書だが、現場の意見が帝国に変わったことについての理由を伺いたい。

城野 課長：従来地図は 4 年生からだったが、新学習指導要領では 3 年生から使用する。3 年生が使用するに当たっては、現行本より帝国の方がと良いと意見を伺っている。

飯島 委員：地図帳は出版社によって収録内容が異なるものではなく、見やすく作られていることが重要だ。実際に指導する先生方が、そのように判断するのであれば、現場の意見のとおり、帝国で良いのではないか。

中田教育長：他に意見が無ければ、教科社会、種目地図については、「4 6 帝国」を採択することに異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【46帝国を採択】

【 算数 】

中田教育長：算数については、2東書、4大日本、11学図、17教出、61啓林館、116日文の6社である。委員の皆様のご意見を伺いたい。

西井委員：当市の子ども達の学習レベルと同じレベルの市町村は、東書、啓林館を採択していることが多い。啓林館は、多角形を扱った問題の中に応用問題があり、その他の練習問題も多い。東書は分かりやすい説明があり、巻末の練習問題数も多い。

飯島委員：中学校での事例であるが、同じクラスで同じように授業を受けている生徒同士で、テストの後、出題された問題の類似問題を見たことがあると感じる生徒と、そうでない生徒がいた。このことは類似問題の判断基準が、理解度によって異なることを示している。私見であるが、深く理解することによって、発展的な問題も類似問題として処理できるようになるのであれば、東書や啓林館のように発展問題等に多くを割いているより、基本的で易しいことを分かりやすく書いてある日文がふさわしいように思う。

浦林委員：算数は、学校で学ぶより前に、学習塾で計算というものに慣れる子もいる中で、高学年になると苦手意識が出やすい教科だと思う。東書では、「学習のしあげ」として、「いかしてみよう」のコーナーがある。2年生の下では、身の回りのどんな所に数字が使われているか調べ、その数字の用途は、大きさや記号等、何かを説明させ、子ども達を身近な数字に引き寄せている。また、5年生の上では比例の単元について、校舎の階段を使って、1階から3階までの高さを調べる、という形で身近な題材を使って表現されている。身近な題材を用いることで、子ども達が難しく感じていたものについて理解が深まるだろう。6年生では各社とも小学校のまとめが取り扱われており、算数の考え方を理解した上で中学校につなげていくものになっていた。中でも東書は、卒業旅行として、国際コース、和算コース、パズルコース等が用意されていた。小学校の各単元の内容を押さえた上で、各国の筆算の仕方や、江戸時代の和算等が取り上げられ、算数の世界の広がりを感じられ、6年生の最後に算数の面白さを実感できると思った。

寺田委員：他の委員の意見を伺って、他社も様々な魅力があると思ったが、学校現場の支持している日文が、先生方が指導する上では使いやすいと思う。日文では「たしかめポイント」があり、それぞれのページ数を振り返っているコーナーがあり、自主学習の時、分かりやすいと思った。

坪井委員：今回の学習指導要領の改訂では、プログラミングが重要であると思う。プログラミングの学習は、データを読み取り、活用することに尽きると思う。日文はデータの読み取り方、表し方、活用、目的に応じた統計的な問題解決の方法に至るまで、かなりの分量を割いている。また対話性を重視しており、データを使ってどう問題を解決していくかということまで落とし込んでいる。

イノダ委員：私自身、算数に苦手意識を感じていたので、教科書については現場の先生が教えやすいと感じているものが良いと思っていた。日文は、内容もそうだが、紙質がよく、余白もあり、書き込みもしやすいという点も良いと感じた。

飯島委員：国語でもプログラミングは扱っているものがあつた。坪井委員からもご意見があつたが、プログラミングについては算数で各社扱っているのか。

城野課長：すべて取り上げている。ただし、日文のように単元ごとに取り上げているものと、巻末に記述しているものがある。

飯島委員：日文では5年生の下に、正多角形を作るというプログラミングの課題を取り上げている。また、巻末でも2ページ割いて、スクラッチというプログラムの操作方法が解説されている。スクラッチは無料なので、学校・家庭のパソコンにインストールできる。新学習指導要領では、プログラミング能力ではなく、プログラミング的思考を身に付けさせることが重要視されている。ただし、プログラミング的思考を身に付けるには、実際に書いてみる、作ってみる、動かしてみるということがまず重要であると思う。プログラミング的思考の取扱いについては、日文が良いと思う。

中田教育長：東書や教出の意見もあつたが、総括すると、日文が多かつたと思う。教科算数、種目算数については「116日文」を採択することに異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【116日文を採択】

【理科】

中田教育長：理科については、2東書、4大日本、11学図、17教出、26信教、61啓林館の6社である。委員の皆様のご意見を賜りたい。

西井委員：それぞれ学習指導要領の内容は網羅しているが、県内では啓林館を採択する市町村が多い。また、当市と同様の学力レベルの市町村は、東書が多い。その上で内容を比較しても、東書と啓林館どちらも良いと思う。

飯島委員：理科は、教科書の文章理解をさせるのではなく、教科書を通して子ども達に実験や考察をさせることが大切だ。これまでどおりに指導しやすい啓林館で問題はないのではないか。

寺田委員：理科については、環境問題の取扱いについて重視して見させていただいた。啓林館は、川や海を汚さないための整備、電気の使用量の削減、二酸化炭素排出量の削減等の取組は、「未来のため」と記載されていた。単なる知識より、「未来のため」という目的が記載されている方が、環境意識が身につけやすいと思う。

中田教育長：皆様の意見を総括すると、啓林館を支持する声が多い。教科理科、種目理科については、「61啓林館」を採択することに異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【61啓林館を採択】

【生活】

中田教育長：生活については、2東書、4大日本、11学図、17教出、26信教、38光村、61啓林館、116日文の8社である。委員の皆様のご意見を賜りたい。

飯島委員：生活科が導入されてから約30年経ち、各社とも様々な工夫をされ、どの教科書も理科、社会の分野にこだわらず、社会と自然を一体的に取り扱うという生活科らしい単元になってきているという印象がある。生活科では、幼稚園等の活動を学習に還元していく入口と、社会・理科への導入という出口を用意しなくてはならない。中でも、観察よりも人とのコミュニケーションを意識している東書が最適ではないかと思う。

坪井委員：理科的な単元に偏りがちな教科書が多い印象だった。東書について、ややサイズが大きくて重いことが気になるものの、2年生は町探検の単元があり、人との関わりの中で社会と自分の距離感をつかむような内容が多い点が良いと思った。

西井委員：生活科とは、理科・社会の単元以外に、生活に関わるものを学習し、身近で見聞きしたものを概念として取り込んでいく科目だと思う。生活科は楽しく学べるものがあるので、東書がいいのではないか。

レカル委員：大きさについての意見があるが、生活の教科書は学校に置いておくのか。

城野課長：学校によって異なるが、生活科は季節に合わせた授業をすることも多いので、学校に置いておくことが多い。

中田教育長：皆様の意見を総括すると、東書を支持するものが多かった。教科生活、種目生活については「2東書」を採択することにご異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【2東書を採択】

【音楽】

中田教育長：音楽については、17教出、27教芸の2社である。委員の皆様のご意見を賜りたい。

寺田委員：教出は、子どもの写真が多くて、分かりやすい。リズムのとり方も明快で、また、家庭で触れる機会が少ない鍵盤ハーモニカやリコーダーは大きく写真が写っていて、子ども達にとって分かりやすく、取り組みやすい。また、教出は「日本の歌」で桜や富士山の写真が大きく、日本文化やその美しさを感じられ、レイアウトにもゆとりがあるのが良いと思う。

飯島委員：当市は吹奏楽が活発で、先生方も子ども達も音楽への関心が高い。授業としての音楽について、子ども達の取組の様子など、現場の意見はどうか。

城野課長：学校現場からの意見は、6校ずつで丁度二分している。なお、調査部会からの意見としては、教出を支持している。

イノブ委員：学校現場の意見にもあったように、教出は大切なメッセージが込められている歌が多く、子どもに歌わせたいものが多い。寺田委員からは日本の歌について意見があったが、それと同時に英語の曲の取扱いも多く、『蛍の光』の歌詞に英語版もあり、子ども達の世界が広がる題材もある点が良いと思った。

飯島委員：どちらも『君が代』について、丁寧に扱っている。教芸はすべての学年の最後のページに『君が代』がある。それぞれの国に国歌があり、それぞれの国歌を大切にしようというメッセージが伺えるが、同時にやや窮屈な印象もあり、本来のメッセージを損ねかねない。もっと自由に扱ってもいいのではないか。学校の式典は君が代が斉唱されていることを考えると、音楽の授業で、これほど多く取り扱う必要もないと感じた。構成としては、教出の方が自然だと思う。

中田教育長：皆様の意見を踏まえると、教出への支持が多かった。教科音楽、種目音楽については、「17教出」を採択することに異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【17教出を採択】

【 図画工作 】

中田教育長：図画工作については、9開隆堂、116日文の2社である。委員の皆様の意見を伺いたい。

飯島委員：印象としては、両社とも子どもの作品を多く取り入れている。高学年では芸術作品の鑑賞があるが、個人的には、低学年からも芸術作品を取り扱っていいのではないかと思った。しかし、両社ともその点が同程度なので、採択に当たっては、現場の意見を優先したい。

浦林委員：中学校では、美術において、芸術作品の鑑賞も教科の中で大きな分量を占め、芸術に対する知識が評価や通知表の成績の対象になる。小学校の単元としては、のびのびと自分を表現したり、友人の作品の工夫を発

見することを重視しても良いと思う。教科書の内容はどちらも工夫されており、大きな差異を感じないので、現場の意見を優先したい。

中田教育長：現場の意見を優先したいという意見であった。教科図画工作、種目図画工作については「116日文」を採択することに異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【116日文を採択】

【 家庭 】

中田教育長：家庭科については、2東書、9開隆堂の2社である。委員の皆様のご意見を賜りたい。

西井委員：家庭科は、特別教室での実技の作業が多い教科なので、開隆堂がコンパクトで使いやすいと思う。

飯島委員：内容については差異を感じないし、実技が多い科目なので、学校現場が使いやすいものを採択するのが良いと思う。

レノル委員：家庭科で扱う内容は、大人になると男女の役割分担が問題になることが多い。どちらも小さなイラストに至るまで、男女差がなく、積極的に男性が家事に参加しているように配慮されている。後は使いやすさが重要だと思うので、現場の意見に委ねたい。

坪井委員：実技におけるレシピについては、教科書にこだわらず、学校で使いやすいものを使って授業をしようと思う。ただし、ランチョンマットの作成は、必ず実施しようと思うが、開隆堂の方が分かりやすい。また、東書はミシンの糸掛けについて詳細に記載しているが、機械によって様々なので、運針についてより詳細に記載されている方が良い。また、サイズについても開隆堂が良い。

中田教育長：学校現場、委員の皆様のご意見を総括すると、教科家庭、種目家庭については、「9開隆堂」を採択することでご異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【9開隆堂を採択】

【 保健 】

中田教育長：保健については、2東書、4大日本、207文教社、208光文、224学研の5社である。委員の皆様からご意見を賜りたい。

西井委員：保健は、自分たちの近い将来における健康課題について学ぶ教科だ。薬物乱用について、光文は「1回でも死ぬ」と断言している。ただ、「1回でも死ぬ」まで太字で、そのあとに「ことがある」と続いているので、そこまで問題はないと思うが、学校教育において教える内容は、誇大なことや単なる脅しになることはふさわしくないと思う。科学的根拠に

よって説明できるものが良い。また、東書はサイズが大きいのが気になるものの、内容的には良いと思う。

レイルズ 委員：教科書の採択に当たっては、基本的に現場の先生方の希望を尊重したいと考えているが、現場から希望が出ている光文より、東書の方が見やすいと感じた。光文は写真や絵が小さく、体のことや身の回りのことについて学ぶに当たっては、東書のように大きな写真や絵を通じた学習の方が、子ども達には分かりやすいと思う。

飯島 委員：複数の教科で、西井委員から教科書のサイズについてご意見があった。私も昨年度、教科書の重さを量って報告した。教科書は、サイズが大きいと、机に置いたときに作業スペースを減らしてしまうほか、重たいと、毎日複数の教科書を入れて持ち歩く鞆が重くなり、身体の成長に影響を及ぼしかねない。この点について、改善されてきていない印象があるので、教科書は極力小型に、軽くしていただきたい。また、先ほど西井委員からご意見があった薬物に関する記述については、1回でも危ないというニュアンスなので特に問題ないと思う。また、保健に限ったことではないが、近年出版社ごとの特徴が見えないぐらい差がないので、各社の特色を出してもらってもいいと思う。

神澤 委員：小学校高学年では、様々なものに関心が湧いて来る。保健を自分の命を守る教育の一部だと考えると、薬物については脅すぐらい強く訴えてほしい。実際に薬物を使用してショック死をすることもあるし、そのことを子ども達も知らない。年代が上がっていくとアルコールの問題もあるので、物質乱用の危険性を子ども達に訴えることには意味があると思う。また、光文は、6年生の心の発達について、4コマ漫画を使って相談について取り扱っている。相談などの援助希求行動は心の健康の維持にとって大変重要である。

中田教育長：確認であるが、熱中症については触れているのか。

城野 課長：すべての出版社で資料として扱っている。特に、東書と文教が大きく取り扱っている。

坪井 委員：光文は3・4年生でLGBTQについて取り上げられている。低年齢の自分の性を意識する段階で取り上げられていることに意味があると思うし、子ども達が目線で問題提起されている点も良い。LGBTQに関連した受診者数は4.6万人だが、性に違和感を抱いている方は全体の8.9%もいらっしゃるそうだ。また、光文では「よりそいホットライン」について記載され、発育に関する見た目のこと、学習発達のこと、全編を通じて子ども目線で問題提起されており、子ども達の心情に寄り添っている。自分の心と体の健康、不安や悩みに向き合う教科は保健しかない。保健の教科書は、問題を自分事として考えられるように工夫されている教科書が望ましい。

浦林委員：東書か光文を支持する意見が多かった。自分事として心と体の健康を考えられると坪井委員からもあったが、光文は多様性を受け入れる教材を使用している。目次の前に見開きで、パラリピアンやオリンピアンが取り上げられていて、健康とは何かについて記載している点に特徴がある。また光文は巻末で、ヘルプマークやマタニティマークなどを紹介し、ユニバーサルの考え方を伝えている。光文は、1時間の授業内容が見開き1ページでまとめられていて、次のページに発展的内容を載せる構成になっていて分かりやすいが、その分字が小さくなってしまっている。見やすさについては、東書の方が良いと思う。

中田教育長：東書と光文の意見が多かったが、総括すると、光文を支持する声が多かった。教科体育、種目保健については、「208光文」を採択することにご異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【208光書を採択】

【 英語 】

中田教育長：英語については、2東書、9開隆堂、11学図、15三省堂、17教出、38光村、61啓林館の7社である。委員の皆様からご意見をいただきたい。

西井委員：現場は教出を希望している。現場が使いやすいものを採択することで問題ないと思う。

レイルズ委員：英語の教科書を見る観点として、絵と写真のバランスを見ていた。学図と三省堂は写真がなく、イラストですべて示されていた。英語は教科である以前にコミュニケーションツールであり、国際的な視野を持つことも重要なので、教科書の写真から世界を見てほしい。また、人種についても、ほとんどは様々な人種の方が英語を話されていたが、一方で金髪青目の方が英語を使うという偏見があり、一部の教科書ではその偏見を感じてしまうものがあった。以上の観点で言うと、東書は写真と絵、また表現される人種について特にバランスが良い。東書には、ピクチャーカードもあり、アクティビティの面でも良い。また、6年生ではマララさんの紹介があり、子ども達に伝えるべき内容が掲載されている。ただ、改善の余地があると感じたのは、各社、QRコードから発音等聞けるようになっているが、東書は、その発音が自然さに欠ける部分がある。動画コンテンツの自然さや多様さについては、光村のものが良かった。「世界の友達」というシリーズで、それぞれの国でイントネーションが異なり、世界にはアメリカ英語以外の英語があることが分かりやすかった。

浦林委員：小学校の外国語学習は、中学校の学びにつながっていく。当市の中学校の現行本は三省堂なので、小中連携の観点から三省堂をよく拝見したが、

字が多く、のびのびと学ぶというよりは、いかにも教科書らしい印象を受けたので、三省堂にこだわる必要はないと感じた。英語を学ぶに当たって、自己紹介から始まるものが多く、光村と東書のタイトルは“*This is me.*”になっていた。一昨年公開されたグレイテスト・ショーマンという映画は、身体等に多様な特徴を持った方が主人公になっており、その作中歌のタイトルも“*This is me.*”で、「これが私です」という言い方は英語の表現として印象に残りやすい。また、日本はヘボン式のローマ字を学ぶので、英語の表記と発音の法則であるフォニックスを理解することが難しい。フォニックスについては、新学習指導要領にはないが、是非授業で取り扱ってほしいと思っていたので、東書で取り扱われていて良いと思う。開隆堂の世界の衣食住を知ろうという単元で、日本の茶道が取り扱われていた。当市は茶釜の生産が活発で、茶道体験授業もあり、当市に関連性がある点が良いと思った。

飯島委員：学校現場の意見について違いがあるが、事務局の見解について伺いたい。

城野課長：英語の教科書は今回が初めての採択になる。各校の意見もまとまっていないが、希望が多いのは教出である。学校の意見をもって懇話会で審議したが、懇話会には中学校の英語担当、また、事務局の指導主事にも中学校の英語担当がいて、両者とも東書のフォニックスを評価していた。学校現場の意見がまとまっていない事態も鑑み、懇話会と事務局で検討し、東書が適切という見解を出している。

飯島委員：候補に挙がっている東書と教出どちらも良いと思う。東書は、写真とイラストの使い分けが適切で、教科書全編を通じて英語に親しみやすい作りになっている。ピクチャーカードも巻末ではなく、別冊で使いやすい。全社で世界を知る、世界に発信するためのものとして、英語を取り扱っているが、東書は特に国際的な観点でみて作られていて良いと思った。

中田教育長：学校現場との意見から異なるが、事務局、懇話会、委員からの意見を鑑みると、東書を推薦する声が多い。教科英語 種目英語については、「2東書」を採択することに異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【2東書を採択】

【 道徳 】

中田教育長：道徳については、2東書、11学図、17教出、38光村、116日文、208光文、224学研、232廣あかつきの8社ある。委員の皆様からのご意見を伺いたい。

飯島委員：現行本を採択して2年目であり、単年度の使用に留まり、内容や使いやすさ等の検証ができていない。特別に変更する理由がないのであれば、ここは引き続き光文を使用し、検証するのが適切である。

中田教育長:飯島委員からのご意見にあったとおり、教科道徳 種目道徳については、引き続き「208光文」を採択することに異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【208光文を採択】

【 特別支援学級使用教科書 】

・特別支援学級使用教科書の採択について城野教育指導課長から説明

中田教育長:特別支援についても、普通学級にて使用する教科書を使用するのが望ましいという説明であった。説明にあったとおり、特別支援についても生徒が在籍する当該学年で採択された教科書を使用することに異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【当該学年で採択された教科書を採択】

○日程第2 議案第25号 令和2年度使用中学校教科用図書(特別の教科 道徳を除く。)採択について

・令和2年度使用中学校教科用図書(特別の教科 道徳を除く。)採択について、城野教育指導課長から説明

<参照:議案書p3>

(質疑)

中田教育長:すべての教科について、現行の使用本からの変更を希望する意見がなかったもので、一括して審議をする。委員の皆様からご意見を賜りたい。

飯島委員:小学校は令和2年度から新学習指導要領に移行し、中学校は令和3年度から移行する。今回採択する中学校の教科書は、令和2年度の1年間のみ使用することで間違いないか。

城野課長:そのとおりである。中学校については、来年度、令和3年度以降に使用する教科書採択を行う。

中田教育長:それでは、議案書4ページの令和2年度使用中学校教科用図書発行者選定一覧表にあるように、教科国語、種目国語については、「38光村」、種目書写については「11学図」、教科社会、種目地理については「46帝国」、種目歴史については「2東書」、種目公民については「2東書」、種目地図については「46帝国」、教科数学、種目数学については「104数研」、教科理科、種目理科については「61啓林館」、教科音楽、種目一般については「27教芸」、種目器楽については「27教芸」、教科美術、種目美術については「38光村」、教科保体、種目保体については「50大修館」、教科技術・家庭、種目技術については「9開隆堂」、種目家庭については「2東書」、教科英語、種目英語については「15三省

堂」の、現行の使用本を生駒市の令和2年度使用中学校教科用図書として採択することにご異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【現行の使用本を採択】

【 特別支援学級使用教科書 】

・特別支援学級使用教科書の採択について城野教育指導課長から説明

中田教育長：特別支援についても、普通学級にて使用する教科書を使用するのが望ましいという説明であった。説明にあったとおり、特別支援についても生徒が在籍する当該学年で採択された教科書を使用することに異議ないか。

(異議なし)

中田教育長：以上をもって、小学校教科用図書、中学校教科用図書（特別の教科 道徳を除く。）及び特別支援学級が使用する教科書の採択についての審議を終了する。選定懇話会の皆様、調査部会や各小中学校の先生方には、長期にわたり研究を重ね、貴重なご意見や報告書を作成していただいた。また、担当部署においては、教科書センターを開設し、広く市民のご意見と教科書採択に必要な情報を収集していただいた。この場をお借りして、感謝を申し上げます。今回採択した小学校の教科用図書については、新学習指導要領に対応した教科書となる。主体的・対話的で深い学びを実践していくとともに、高学年における英語の教科化やプログラミング学習など、様々な新たな指導が行われることとなる。しかしながら、採択した教科書がどのような教科書であれ、子どもたちにとっての最大の教育環境は現場の先生方である。子どもたちが健やかに育つためには、現場の先生方の熱意と努力と研究にお任せするしかないのが現状である。現場の先生方には、本日採択いたしました教科書を学習活動の中で生かしていただき、充実した学習をすすめていただくよう、お願いしたい。

審議結果 【現行の使用本を採択】

○閉会宣告

午後0時6分 閉会